

工場景観の色彩評価に関する研究

寺井 剛^{*1} 野村忠生^{*1}

A Fundamental Study on Color Evaluation of Factory Space

Takeshi TERAJ and Tadao NOMURA

この研究は、工場景観の色彩設計への応用を目的とし、天井、壁、床、通路及び装置の色彩の視覚効果を定量化するために行ったものである。実験では、工場を抽象的に表現した6種類の刺激を被験者に提示し、18の形容詞対によりSD法で評価させた。

1. t検定の結果、一部の尺度においてYR系、PB系、G系共に男女間の有意差が認められたが、色相による男女間の差異ではなくトーンの設定によるものであると推測される。
2. 因子分析により4因子が抽出された。第1因子は工場の色彩環境の美しさ、好みに関係するため、「評価性」因子とした。第2因子は不安定、危険の程度に関係するため、「安心感」とした。第3因子は不健康、暗い、閉鎖的の度に関係するため、「健全さ」とした。第4因子は大きさ、広さの程度に関係するため、「量感」とした。
3. 性別・血液型によって分類した48の条件について因子得点を算出し、因子空間における布置を見た。この結果、PB系の配色は比較的好まれるが工場の色彩環境としては安心感の面で好ましくなく、YR系の配色は工場の色彩環境として、安心感はあるが若者には好まれないことが推測された。「量感」及び「健全さ」については、色相による傾向は見られなかった。しかしながら、明度を高くすることによって量感が得られることが分かった。

^{*1} 応用材料部